にべも無くオオニベ

10 月 21 日に伊豆漁協白浜支所の糸賀さんから珍しい魚の写真があるから見てほしいとの話があり行ってみると、写真 1 のように少し口が突き出て体高の高い大きな魚で、ぱっと見たところアカメかと思いました。この日の朝、糸賀さんのお父さんの糸賀公仁さんが外浦沖の刺網で獲られたとのことです。後日、神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能先生に写真を見ていただいたところ、オオニベの体高の高いバージョンだとの示唆をいただきました。高知県四万十川で有名なアカメが伊豆にも来たかと思いましたが、残念でした。よく見ると、何より眼が赤くないですし、鰓蓋の棘や形、腹鰭の付け根に棘がないこと、尾鰭が円形ではなく直線的なこと、鱗に沿って斜めに走る縦線があること、側線に沿って円い暗色斑が列ぶこと等々、科も違うわけですから多くの違いがありました。かなり早とちりしてしまったようです。この個体の大きさは全長 80 ㎝、体重 5 ㎏でした。

写真 1　10 月 21 日に外浦で漁獲されたオオニベ

この魚が獲れて間もない 10 月 29 日に、伊東市場で伊豆東岸の大型定置網で写真 2 のような個体も漁獲されました。こちらの個体は体高も低かったため、欺かれることもなくその場でオオニベと分かりました。この個体は、全長 78 ㎝、体重 4.8 ㎏でした。

もともと、ニベ科の魚は砂泥域を好むため伊豆東岸の定置網ではほとんど漁獲がなく、シログチが駿河湾や湘南の定置網で漁獲される程度です。オオニベについては、神奈川県立生命の星・地球博物館によれば、これまでにも神奈川県の米神定置網と川奈定置網で採捕された標本があるようですが、この秋に連続して 2 個体が伊豆で採捕されたことになります。主に南日本から東シナ海、黄海に分布する種なので、遠く西方の海から流れて来たのでしょうか。また、

写真２　10 月 29 日に伊東市場に水揚されたオオニベ（下はタチウオ）

２個体とも十分に大きく思えたのですが、全長は 1.5m に達するようなので、まだまだ成長途上の個体だったのでしょう。大きな魚なのでゲームフィッシュの対象としても喜ばれているようです。

ニベ類は東シナ海沿岸では非常に重要な食用魚ですが、もう一つ思い浮かぶのが「鰾膠(にべ)も無い」という言葉です。「にべも無く断られた。」などと使われ、広辞苑（岩波書店）によれば、愛嬌も思いやりもないという意味です。古くは、近松門左衛門の名作、「心中天網島」の中にも「連合い五左衛門殿はにべも無い昔人」というせりふも出てきます。「にべも無く」という場合の「にべ」は「にべにかわ」のことで、ニベ類の「「鰾（うきぶくろ)」から作る膠（にかわ）は、とても粘着力が強いそうです。「にべ」はその意味から転じて、人に親密感を与えることだそうで、通常は「にべも無い」として、否定形で用いられるようです。

貴重な写真をいただいた糸賀さん、ありがとうございました。また、今回は種の査定に際して神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能宏先生に多くのご助言をいただき、ありがとうございました。今後とも皆様の貴重な情報に対して「にべも無い」返事などせぬよう、努めてまいりたいと思います。

（御宿昭彦）